

## 第1学年 国語科学習指導案

日 時 平成24年1月30日(月) 2校時  
対 象 東京学芸大学附属小金井小学校1年3組  
指導者 大塚健太郎 印略

1. 単元名 ともだちの ころを 読みあじわおう

2. 教材名 「お手がみ」 (教育出版 1年下)

### 3. 単元の目標

- 場面の様子や登場人物の行動から、かえるくんとがまくんの友情を読み味わおうとする。  
(関心・意欲・態度)
- 場面の様子や登場人物の行動から、ふたりの友情について想像を膨らませて読むことができる。  
(読むこと)
- 語のまとまりや登場人物の気持ちを考えながら、音読をすることができる。  
(読むこと)
- 文の中の主語述語との関係に気をつけながら読むことができる。  
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)
- 登場人物の様子や表現したい気持ちに合った声があることを知り、実際に表現しようとする。  
(メディアリテラシーの観点から)

### 4. 単元設定の理由

1年生の3学期までに本学級の子どもたちは、物語を図書の読み書きの時間を含めてたくさんふれあってきたため、お話好きの子どもたちとなっている。新しいお話を聞くときには、物語の展開がどうなるか想像を膨らませて楽しむことができるようになってきている。

そこで、数ある物語から『お手がみ』を、クラスの友達にも慣れ親しんできたこの時期に、友達との関わりを振り返るきっかけとして出会わせる価値があると考えた。

『お手がみ』は、一度も手紙をもらったことのないがまくんの落胆する様子とがまくんを喜ばせたくて手紙を書くかえるくんの優しさが対照的に描かれている。また、かえるくんの書いた手紙を預けたかたつむりくんが、予想に反して到着が遅く、手紙が来ることを知っているかえるくんといつも通り来るはずがないとあきらめているがまくんの様子も、読み進めていく児童にはわかりやすく描かれている。そのため、二人の気持ちの変化や人物の様子が想像しやすい物語となっている。

そこで、ペープサートを作り、二人の人物の様子や気持ちを想像し、ぴったりの声を考え演じることで、想像豊かにお話が読めるようになると考える。

また、メディアリテラシーの観点から考えると、演じる側を体験することは、単に想像を膨らませることではなく、情報の発信側を体験することとなり、情報は発信側が作っているということが分かるメディア教育の入口となる価値ある言語活動となる。

## 5. 学習指導計画（全6時間）

第1次 作品と出会い、学習計画を立てる。

- ①『お手がみ』の読み聞かせを聞き、自分でも読み、感想をもつ。
- ②自分の好きな場面や人物を紹介し合い、ペープサートと出会う。

第2次 二人の気持ちや人物の様子を想像しながら『お手がみ』をペープサートで演じる。

- ③手紙をもらえないがまくんと手紙を書いて喜ばせてあげようとするかえるくんの優しさを思いうかべ、ペープサートで演じる。【国語>メディア】
  - ・ペープサートを作って演じると、普通の学習と違ってどんなことがよかったですか。
- ④沈んでいるがまくんと励まそうとするかえるくんの様子や気持ちを思いうかべ、ペープサートで演じる。【国語>メディア】
  - ・二人の気持ちをペープサートで演じるときに、どんな工夫をしましたか。
- ⑤手紙を書いたことを伝えたり知ったりした二人の気持ちの変化を思いうかべ、ペープサートで演じる。(本時)【国語<メディア】
  - ・VTR（ビデオ）を見たことで、ペープサートで演じるときにどんなことに気がつけましたか。

第3次 学習のまとめをする。

- ⑥大切な友達であるかえるくんがまくんになったつもりでお手紙の返事を書く。

## 6. 本時の指導

### (1) 目標

#### 【国語】

かえるくんが手紙を書いたことを黙っていられなくなってしまった気持ちと、それを知って幸せな気持ちになっていったがまくんの気持ちを思いうかべて読むことができる。

#### 【メディアリテラシー】

登場人物の様子や表現したい気持ちに合った声で作られていることに気付き、そのことを意識してペープサートで二人の様子を演じるようとする。

### (2) 指導計画

主な学習活動・予想される児童の反応	○留意点 ※評価
1. 前時までの学習をふりかえる。 ・前時の範囲をペープサートで演じる。	○二人はどんな気持ちだったか簡単に振り返る。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             かえるくんとがまくんの気持ちを考えながら、ペープサートで演じよう。           </div>	
2. 学習の範囲を音読しながら確認する。  3. 気持ちや人物の様子ので分かる語句や文をさがし、気持ちを思いうかべ、まとめる。 <b>【かえるくん】</b> ・「だって、いま、ぼく、手がみをまっているんだもの。」 （あ、しまった。言ってしまった。秘密にしておいたのに。）（ぼくがきものために書いたんだよ。かたつむりくん、早く来ないかなあ。） ・「だって、ぼくが、きみに手がみ出したんだもの。」 （ああ、もうがまんできない。そんなに言うなら言ってしまうおう。喜んでくれるかなあ。）  <b>【がまくん】</b> ・「ずっとまどのそとを見ているの。」 （ぼくはあきらめているのにどうして今日は来るって思えるのかなあ。不思議だ。） （どうして、ちっともあきないで見ていられるのかなあ。） ・「きみが。」 （え？かえるくんが書いてくれたの？信じられないよ。） ・「ああ、とてもいい手がみだ。」 （これがお手紙なんだ。うれしいよ。涙が出そうだよ。かえるくん、ありがとう。）	○板書を上下に分け、言葉とその時思いうかべた気持ちを時系列に整理し、気持ちの変化と二人のやりとりが見て分かるように整理してまとめる。 ○ペープサートを使って声を出させて考えてもよいことを伝える。 ※かえるくんとがまくんの気持ちを文章中の言葉や文から思いうかべている。【発言・ノートの記述】

**4. 映像教材「アニメのふしぎ3」の部分を視聴し、感想を発表する。**

「上手にペープサートで演じられるようになってきたね。今日は、もっと上手になるためにビデオをみます。」

- ・アニメーションの声によって、伝わる感じが違う。
- ・女の子に合った声を選んでいることを初めて知った。
- ・女の子の絵に違った声を合わせると様子が違って感じる。

**5. 人物の様子や気持ちからふさわしい声を考え、かえるくんとがまくんのやりとりをペープサートで演じる。**

「声によって伝わるイメージが違うことが分かったね。では、みんなが演じているかえるくんとがまくんのイメージはどんなかな。まとめてから演じよう。」

**【かえるくん】**

- ・友達思いでやさしい。
- ・かたつむりさんに手紙を預けるなんて、あわてんぼう。
- ・すぐに行動するのは偉い。

**【がまくん】**

- ・いじけやすいけど、友達が大好き。
- ・感激やさん。

**6. 演じた結果を交流し、感想を伝え合う。**

- ・がまくんがだんだん元気になってきたので、明るい声で言いました。
- ・がまくんをよろこばせたくて秘密にしているかえるくんは優しいと思いました。
- ・思いうかべた様子が違うとがまくんの声も違ってくるし、違う声だと合わないことが分かった。
- ・声の出し方を工夫したので、かえるくんの気持ちになれた。
- ・イメージから考えた声と友達の声が違ってびっくりした。
- ・同じかえるくんが友達とは違ったのでおもしろかった。
- ・ビデオを見たのがまくんの気持ちをよく考えて演じた。

○アニメのキャラクターなどを想像させ、ふさわしい声が付けられていることを確認し、ペープサートを演じている子どもたちも、その役目を行っていることに誘う。

**※アニメの声はふさわしいように作られていることを知る。【発言・ノートの記述】**

○前時の振り返りから、人物像を確認し、本時の3の学習と合わせて考えるように助言する。

○想像が膨らみにくい場合は、教師がわざとふさわしくない声で演じることで、かえるくんやがまくんの気持ちから思いを膨らませやすいようにする。

○板書を見ながら、実際に声に出させる。(どんな気持ちを表すのか、どうしてそのような声がふさわしいと感じたのかななどを言わせてから、実際に行う。)

**※演じる役の気持ちや人柄を考えてペープサートで演じている。**

**【発言・活動の様子】**

○メディアリテラシーに話が広がらない場合は、以下のように補助発問を入れる。

「ビデオを見て、前回の演じ方ときと違って気付いたことや感じたことはありますか。」

**※音声表現によって気持ちや様子の伝わり方が違うことに気付く。【発言・ノートの記述】**